「いとこ」のためにできること

東部小・５　井上　拓真

ぼくは、三年生のとき、授業で動物のことを調べました。名前に「ニホン」と入っていたので、軽い気持ちでニホンオオカミについて調べたら、すでに絶めつしていたことを知りました。それ以来、動物を取りまくかん境やくらしに興味を持つようになりました。だから「オランウータンに会いたい」という題名を見て、迷わずこの本を手に取りました。

オランウータンは、熱帯雨林のジャングルで、木の上でくらしています。オランウータンは、群れを作らず、お母さんがひとりで赤ちゃんを育てています。

一方、ぼくは通学団で集まって学校へ行き、先生やクラスのみんなと一日過ごし、家族のいる家へ帰ります。土日は、サッカー少年団の仲間とサッカーをして、時々祖父の家に遊びに行きます。ぼくは、いつもたくさんの人と接しています。ぼくとオランウータンでは、だいぶくらし方がちがいますが、オランウータンはアジアで育ったぼくたちの「いとこ」と言えるそうです。

その「いとこ」が現在、絶めつのき機にさらされています。そして、その原因がぼくたちにあるかもしれないのです。

ぼくの家の庭には、ひみつ基地があります。ぼくが年長のころにホームセンターで木材を買ってきて、家族みんなで工夫しながら作った小屋です。本の中で、建築資材として森林をい法にばっ採することがあると知り、ぼくのひみつ基地は、オランウータンの住む所をうばってしまったかもしれないと心配になってきました。

また、近年ではオイルパーム農園を作るために、森林をばっ採しています。農園ではオランウータンは害じゅうとしてくじょされたり、みつりょうされ、ペットとして売られたりすることもあります。パーム油は、原材料に「植物油脂」と書いてあると知り、さっそく家にある食品を調べてみました。すると、ポテトチップス、アイスクリーム、チョコレート、カレールーなど、ぼくの好きな食べ物には、みんな「植物油脂」と書いてありました。ぼくがおいしく食べている間に、ぼくの「いとこ」は生きていられなくなっているかもしれないと、さらに心配になりました。

でも正直、ぼくは「いとこ」のために、好きな食べ物をがまんできません。ちょ者の久世さんは、そんなぼくにヒントをくれました。

「みなさんがオランウータンのためにすぐにできることがあります。それは、日々買い物をするときに、価格を見るだけでなく、その製品が何を使って、どうやってつくられているのかを、立ち止まって考えてみることです。」これならぼくにもできそうです。分からないから気にしないのではなく、身の周りのものをよく知ることが、オランウータンを守ることの第一歩だと思いました。

日本から遠くはなれた熱帯雨林にいる、ぼくたちの「いとこ」がこの先も幸せにくらしていけることを願っています。　３・９